

令和3年7月5日（月）

育友会会員のみなさま

部活動検討委員会

第2回部活動検討委員会議事録について

<参加者> ※出席者に☒ 令和3年6月22日（火）18:30～21:00 鳥越中学校体育館研修室にて
☒中川会長 ☒上野 副会長 ☒大坪 副会長 ☒坂田 ☒福田 ☒紺谷 ☒澤崎
☒中村 ☒東 ☒重田 ☒清水（進行） ☒久司校長 ☒石田教頭（記録） ☒山岸

<話し合われた内容>

1 挨拶 校長 県体予選会結果報告など

2 議題

（1）前回の内容と決定事項の確認

- ・部活動の総数は削減する
- ・日程は11月19日育友会臨時総会で決定事項を報告する
- ・部活動検討委員の募集を行う

（2）出席者からの意見

<前回の続き>

- ・グラウンドを使う部活動と室内の部活動を1つという話からこの検討が始まった。
- ・鳥越中と河内中が合併するときに、河内中学校のソフトテニス部は部員も少なかったこともあり、河内中はバドミントンを残してほしいと1つに絞ったということだった。
- ・子供たちに考えさせたい。持続可能な部活動にするためにどうするかを考えてもらいたい。
- ・白嶺中が部活動数削減の意見を生徒に聞くためにアンケートをとったそうだが、多くの意見がありすぎてアンケートからは決めきれなかったと聞いている。
- ・子供たちが自分で考えることが当事者意識を持てる。
- ・もしそうするとしてもある程度決まり事のある中で子供に決めさせないといけないのではないかな。
- ・学校からは、決まり事について、現在の考えはあるのか。
- ・中学校体育連盟という組織がある。そこに登録されている競技に限定しないと大会には出られない。部活動のやり方も中学校体育連盟の規定に沿って行う必要がある。各競技部の規定もある。例えば、選手登録をしないと大会には出られないなどがある。
- ・運動したくない子供のことも考えなくてはいけないのではないかな。文化部が必要かを考えるとよい。
- ・今後の生徒数推移を見て、部活動数を先に決め、その後に今の部活動をどうするのかを少年団等に部活動指導をお願いすることも含めて考えていくという手順でよいのではないかな。
- ・部活動数は2～3で、男女混合の部活動が良いのではないかな。
- ・地域活動部はその数に含めないということを確認したい。
- ・2つの部活動で男子1、女子1の部活動数だと、長く体制を続けられるので良いのではないかな。
- ・部活動数2で、男女とも所属できるようにすると、子供は選べる。限定されるのはどうかと思う。
- ・今、話が出た2つの案は、個人競技になるのではないかな。

- ・ちなみに、野球部に女子は参加できるのか？ → 県大会に参加した例はある。
- ・試合に出ることだけを目標にしている人だけではなく、部活動の練習を楽しむことを大切にする人もいる。そういう考えを持つ人がいてもいいとなるとよい。そうすると個人競技になるのではないか。
- ・検討委員会が本年度発足したが、こういったことが今後数年のうちに何度も何度も行われるようになるのは避けたい。「これならやっていける」という案が必要である。
- ・一から作り直すのではなく、今ある部活動を出発点にして考えられるとよい。
- ・運動部の場合、毎年、来年度は何の競技で大会出場を目指すなど、何の競技部にするか子供に決めさせるような部活動があってもよいのではないか。
- ・その意見とすると、ルールを覚えて大会で審判ができるようになったり、高価な道具を買い揃えたりすることが必要になり、1年ごとに競技を変えることは現実的ではないと思われる。
- ・大会に出られない団体チームは他の部活動から人を借りて出場することを認めることで、団体競技を認めることは可能か？
- ・普段から練習していない子が他の競技に借り出されて試合に出場する姿を見たことはある。試合中は立っているだけであり、つらい思いをしていたように見える。
- ・団体競技の試合日には、所属する競技の試合日でもある。日頃練習している部活動の試合に出られないことになる。選手ではなくても応援や手伝いも出来ないことになる。
- ・出場したとしても、補助員や審判をすることになった場合、かわいそうなことになるのではないか。
- ・だからこそ、借りずにできる競技で部活動を作るとよい。
- ・ここまでは大人の考えである。子供の考えを聞いてみる機会を作って欲しい。大人が決めたことだけで物事が進むことは「大丈夫なのか？」と思う。先ほどの「毎年、子供が部活動を決める」といった斬新な意見が子供からも出てくることもある。
- ・自分の部活動が無くなるのは嫌だと思う子供は多いと思う。部活動を一度選んだ以上はそれを大切にしたいという声が多くなることが見えている。そうした中で、「こうしたい」という声が出てくると凄いと思う。「どうなったらうれしい？」と聞くことも良いのではないか。
- ・子供に「来年度からの部活動をどのようにするか、決めてください」といってから、「それは出来ません」ということになるとは避けたい。
- ・授業などで1・2年生の意見を聞き、それを検討委員会に伝えてもらう方法が良いのではないか。
- ・ここまでの委員会では、「生徒の意見を聞く場があるとよい」という意見が多かった。また、部活動の数は2つということについても特に反対意見もなかった。そこで、この2つの方向で、具体的にどう生徒の意見を聞くのかを、ここからの話題にしたい。
- ・子供に後で、「これはやっぱり駄目です」ということが無いようにできないことは先に確認したい。
- ・3年間でやり抜いたという体験をさせたい。そこから身に付けることが多いのが部活動だと思う。最後までやり続けさせたい。そのためにも「大会に出られないのでは？」「部が無くなるのでは？」と心配しながら部活動を続けさせたくはない。安定的に続けられることがよい。
- ・全員の意見が一致することはないのかもしれない。だけど決めなきゃいけない。
- ・4年前から「チームが組めないという現実が来る」といっていた。在校生ではなく小学校5・6年生が当事者になる。その子供たちにも意見を聞くのが良いのではないか。

- ・現在の部活動数4は多く、続けられない現状がある。ある程度の集団で練習することが必要である。適正な数は今後の話し合いの中で聞いて決められるとよい。
- ・例えば、「大会に出られなくてもよい。部活動の存続が一番大切」という声があれば、同好会を認めてもよいのではないか。
- ・試合に出ないのなら何のために練習するのかと聞きたい。全員が同じ気持ちになるのかが疑問である。新たに入る人や、気が変わった人が「大会に出たい」ということも考えられる。
- ・そもそも、この会が立ち上がったのは削減案が学校から出されたが、それを十分に話し合い、練る時間がなかった。そして小学校から来る子供が「中学校へ行ったらこの部活動をするんだ」とすっきりした気持ちで入ってこさせたい。大人の責任として環境を整えてあげなければならないのがこの会の役割である。そのうえで話を進めることを再確認したい。
- ・そうしたことも踏まえ、小学校の育友会にもこの会へ参加してほしいと伝えたが、参加はなかった。中学校で決めて欲しいと言われている。

<野球部2年生について>

- ・現在、合同チームでの大会参加を目指して、他校に依頼を始めたところである。ただし、上位大会に進んでいるチームもあり、新体制が決まっていない学校もあることから答えが出るまでにはしばらく時間はかかる。
- ・2年生にそのチームに参加するかどうかの意見を聞くことは行うのか？
- ・学校としては、最後まで続けて欲しいと全校生徒に伝えている。そのことは変わらない。続けてこそ学べる事・身につく力もある。
- ・試合に出ることを怖がる2年生もいる。アンケートなどで生徒に聞くとしても何を聞くのか心配である。合同チームならなおさら心配になる。
- ・合同チームで参加できることが決まってからアンケートをとってもよいのではないか。その結果、転部してもよいのではないか。
- ・最後まで続けることを前提に生徒に話をしてもよいのではないか。合同チームが決まってから転部者が出て、チームが組めなくなるとは相手にも迷惑がかかる。
- ・この件は校長に一任したい。

(3) 育友会会員からの意見を確認

- ・生徒の意見を聞いてほしい。

(4) その他

- ・色々な所から意見を聞いてほしい。

(5) 今回の決定事項の確認

- ・適正部活動数は2が妥当である。
- ・学校が在校生の意見を聞き、次回の部活動委員会で報告する。
- ・野球部（在校生）のことは校長に一任する。ただし合同チームで出場できるように動いてもらう。

<次回>

7月9日（金）18:30～20:30 鳥越中学校体育館研修室にて